

日语阅读：友情について PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/203/2021_2022__E6_97_A5_E8_AF_AD_E9_98_85_E8_c105_203013.htm 人生において友情ほど大切なものではなく、友人ほど尊くありがたいものはありません。このことをわたしは、おざなりない持ちでいっているのではないのです。い持ちでいうなら、人生において恋ほど大切なものはないともいえるでしょうし、夫のほど大切なものはないともいえるでしょうし、子の情についても、あるいはまた仕事?勉?健康等々、いろいろなものについて、人生においてこれほど大切なものはないといえるでしょう。これら一つ一つのものが、それぞれ人生において最も大切なものだということは、必ずしもっているわけではありませんが、十分に考えられた上での判断だとは思えません。むろん、人生を形成しているさまざまな大切な要素を比して、そのうちのどれがいちばん大切かといったことをしても、あまり意味のないことでしょう。どれもが大切なのです。にもかかわらずわたしたちは人生のさまざまな要素を考えた上で、友情ほど大切なものはない、といたいのです。一つには、それがわたしの人生でのあまりにもかかな体で、友人の存在を何よりもありがたいことと日ごろ思っているからですし、一つにはまた、理屈で考えてみても、友情は、あらゆる人の中で最も恒常的なもの、永的なものであり、恋人?夫?子?兄弟妹、あるいはその他での交といったいろいろのものの中でも持されるべき基本的なものだからです。わたしたちの人生は、局のところさまざまな

人にほかなりませんが、いろいろなものの中で、友情は特に人的なです。家族のつながりや恋人合のにもそれぞれ深いものがあるにしても、そういったものの中には、ある意味で物的な要素、自然的?本能的な要素があります。これに反して友情は、人特有の、人でなければ持つことのできないものです。人は社会的物であるといわれますが、に多数の者が集まって共同生活をするのが社会的であるとするならば、それは必ずしも人特有のものではないでしょう。家族も社会も、それが人を人たらしめるものであるためには、友情を根底にしているものでなければならぬと思われまゝす。恋人は恋人であって同に友人である、夫は夫であって同に友人である、子兄弟は子兄弟であって同に友人である、こういった恋人?夫?子兄弟こそ、理想的な恋人?夫?子兄弟ではないでしょうか。友情がこのように人生において最も大切なものであり、すべての人を成り立たせる基的なものであるのは、それが最も人的な、本能的な欲望や打算的な利害にかされることの最も少ないだからであり、心と心との密な触れ合い、言では言い表せない深い共感、他のものを目的にしないな信の持ちだからです。友人といっても、むろんいろいろのものがあ、しさの程度もさまざまです。しかし、ここでわたしが述べているのは、本当の友、真の友情でばれたしい友のことです。本当に理解し合うことのできる、信じ含むことのできる友、そういう友をわたしたちは常に求めています。そういう友はそうたくさん必要ではありませんし、またとしてそうたくさんはできないでしょう。しかし、少数でもよい、一人でも二人でもよい、もし

そういう友をいやすことができれば、それはわたしたちの人生の最大の宝、生きていく上での最も大きな力と喜びを与えてくれるにちがいありません。本当の友は、多くの場合、若いときからの年来の友人、学校代あるいは二十前後のいわゆる青春代からの友人です。大人になってから、殊に三十を過ぎてから、心からの友をいやすことは、ないことはないでしょうが、なかなか困なことです。わたしの合でも、友の大部分は学生代からの友人です。だから学生代に、あるいは二十前後の若いときによい友人をすることはめて大事なことです。なぜ若いときの友人が一生の友人になることが多く、それに比べて大人になってからでは友ができていくか、このことを考えてみると、友情とは何かはかなりはっきりしてくると思います。その人の存在だけでこちらが慰められ励まされるような友、生涯いてわらない美しい友情、こういったものが若いときに作られることが多いということは、そういう若い代には各自が素直に人生に直面しており、したがって素直な自己をさらけ出して生きているので、心と心が素直に触れ合うことが多いからでしょう。言いえれば、青春の代にあっては、打算的?功利的な考えで人と交することが、大人の社会に比べて少ないからでしょう。一口に友人といっても、そのや程度はさまざまだと前に申しましたが、世にはに利害だけでばれている友人や、利害だけでなくでもごく表面的なだけで交している人を友人と呼んでいる合が、たいへん多いのです。利害だけでばれているならば、その利害の化によって、今まで友のように交していた人どうしがたちまちかたきのようにな

ってしまうこともあるでしょう。それはして友とはいえません。またに表面的なこと、例えばクラスが同じだとか、趣味が似ているとか、が一つだとかということで友人になっている合があっても、それはそれでよいでしょうが、これだけでは生涯の友人にはなれません。なぜなら、本当の友情とは心と心の触れ合いですから、表面的なことだけでは成立せず、互いの真をぶつげ合う素直な持ちが必要だからです。大人になってからは友ができにくく、若いときにこそ真の友情をつけることができるのは、自己の真を裸のまま示す素直な持ちを若い人々は持っているのに、大人になるといろいろなカラが出来てしまって、自己をき示すことが少なくなるからでしょう。ということは、友情の成立に必要なのは、必ずしも若さということではなくて、人生にする真な持ちをき示し、また、他人のそのような持ちを受け入れる心の素直さです。言いえれば、人生にする真な持ち、自分自身にする城さ、これなくしては友情は得られず、逆にまた、これさえあれば若くても若くなくても真の友情を得ることができるにちがいありません。友情における相互の信というものは、人生に立ち向かうこの真さを相互にめ合うことですから、性格や意がどのようによっても、外的な境がどのようによっても、そういった相を超えて成立するものですし、これは相互の生き方の最も深いところでの信ですから、生涯わることなくくのです。こういう信は、当然、相手にする尊敬を伴います。人生にする真真な度ほど尊敬すべきものはないのですから、信が尊敬を生むのは当然です。信を持って人に接すれば、わたしたちはそ

ここに自分の持っていないさまざまな所をし、それを尊敬し、そこから学び、それによって励まされます。逆にまた、そのような信を友人から寄せられるならば、それによる大きな慰めと励ましはないでしょう。なぜなら、人生への真という点での信は、心の最も深いところでの信であり、他の何ものによってもかされることのないものだからです。人がなんといおうとも、世がどんなに自分を解しようとも、友人だけは分かってくれていると思うことができるのは、なんとというありがたいことでしょうか。() 100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问

www.100test.com